

大阪歴史教育者協議会第51回研究大会

地域に根ざし 主権者を育てる社会科教育



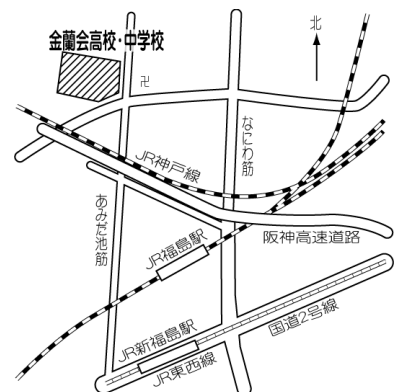
歴史をゆたかに学びたい、わかる楽しい授業がしたいと願うみなさん。
日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞で迎えた戦後80年。
ウクライナとパレスチナの戦禍がやまず、平和憲法をもつ日本で軍備が拡大していく…。
そんな今、子どもたち、青年たちとともに、平和学習をどうすすめていけばいいか、
みんなで学び、交流しましょう。

2025年 **2月15日** (土) 14:00~16:40

(13:45~ 大阪歴教協総会)

会場: 金蘭会高校・中学校

(大阪市北区大淀南3丁目3-7 JR福島駅から徒歩8分 阪神本線福島駅から徒歩10分)



14:00~	14:05~15:25	15:25~15:40	15:40~16:10	16:10~17:00
基調	講演: 若者が考える 戦争・核・平和	休憩	報告 青少年キャンプ	質疑応答 全体討論
河内晴彦さん	井/口貴史さん	教材交流 本や写真など展示・提供します	原 幸夫さん	みなさんの発言を



☆ 資料代 : 1000 円

市民・学生 500 円
高校生以下無料

☆ 研究大会受付:
13:30~

主催:
大阪歴史教育者協議会
<https://osaka-rekkyo.org/>

14:05～15:25 講演 **井ノ口 貴史** さん
 (大阪歴教協委員長 立命館大学)

21世紀を生きる若者が考える戦争・核・平和

—「9.11」に出会った高校生と

岸田政権の防衛政策・原発政策を学んだ大学生の語り—

2001年、同時多発テロ事件(「9.11」)を機に、アメリカによって引き起こされた「対テロ戦争」の実態やそれに積極的に関わっていく小泉純一郎政権の姿を目の当たりにして、「書いて対話する学び(意見表明—紙上対話—紙上討論)」に取り組んだ高校生の語りを分析し、当時の高校生が戦争や平和についてどう語っていたかを紹介する。

イラクに派遣されていた陸上自衛隊が撤退した2006年には北朝鮮の核実験にかかわって、高校生が憲法第9条と核保有、日米安保条約について意見表明を行った。そこで語られたことを紹介し、この時期の高校生の語りを紹介する。

それから20年、岸田政権が、ロシア・ウクライナ戦争に便乗する形で打ち出した安全保障関連3文書の改訂・敵基地攻撃能力・防衛費GDP比2%(5年間で43兆円)の防衛政策と原発再稼働・新增設・運転期間を60年に延長する原発政策を学んだ大学1回生の意見表明に表れた戦争や平和に関する記述を分析し、この20年間の変化に着目してこれからの教育の課題を考えたい。



15:40～16:10 報告 **原 幸夫** さん
 (大阪歴教協副委員長 私立高校非常勤講師)

越境する学びあい、語りあい

—中高生の東アジアという場をつくって20年—

日本の安全保障上、日本国憲法第9条は理念にすぎず、日米安保体制の方が現実的ではないかと認識する高校生の存在が気になり始めたのは2000年頃であった。戦後日本は、9条の精神にそった対話外交を日本国民自身も未経験であり、大人はもとより高校生さえ東アジアの未来像を描けないと悟った。

2002年にスタートした「東アジア青少年歴史体験キャンプ」に参加する機会を得て、日中韓の中高生が「歴史問題」を学びあい人間的な交流を体験する空間で、彼ら彼女たちが国家の枠を超えた新鮮な東アジア認識と友情を生み出すことを確信した。

2019年の東京キャンプの映像をとおして東アジアの中高生の活動を紹介し、報告とする。

日常の学校教育において、こうした国境をまたぐ多様な実践を広げる工夫と努力が望まれる。

井ノ口さんの講演と原さんの報告をもとに、平和学習をどうすすめていけばよいか話し合いませんか。
 とりくみや経験も交流しましょう。皆さんの実践や資料をお持ちください。